手術・治療・検査

見た目の若さ、美しさをそれなりに保っている一方で、年齢特有の症状にへこんだり、大病への不安もちょっぴり芽生えてきた私たち。うれしいことに、病いの手術法、治療法、検査法は、日々劇的に進化しています。情報を更新することで、生活の質、人生の質が、変わるかもしれません。HERS目線で最前線の医療をご紹介します。

病気の救世主

マイクロ波子宮内膜アブレーション

子宮内膜を焼灼することで過多月経を軽く

浅川産婦人科
浅川恭行先生
東邦大学医学部卒。同大学院医学研究科卒。同大医学部助手、東邦大学医療センター大橋病院産婦人科講師を経て、2009年より現職。東邦大学医療センター大橋病院客員講師、鶴見大学非常勤講師を兼任。日本産婦人科医会幹事、日本産科婦人科内視鏡学会副幹事長などを務める。

東邦大学医療センター
大橋病院
東京都目黒区大橋2-17-6
☎03-3468-1251
http://www.ohashi.med.toho-u.ac.jp

日本で過多月経に苦しむ人の数は推計600万人とも。子宮筋腫や子宮腺筋症など子宮に原因があるケースが多いのですが、原因がはっきりしないケースもあります。いずれにしても月経の出血が多いために貧血を起こし、体のだるさを訴えたり、仕事や外出に支障をきたす状態をいいます。

一般的な治療法はホルモン剤や止血薬、貧血があれば鉄剤などの薬物療法ですが、これで症状が改善されないケースもかなりあり、次のステップとして子宮筋腫核手術や子宮摘出術などの手術療法が検討されます。

しかし閉経がそれほど先の話ではないHERS世代では、「もうちょっと頑張ってみたい、今さら手術は……」「子宮がなくなるのには抵抗がある」と、手術療法に二の足を踏む人が多いのも事実です。

電子レンジと同じ電磁波を使う治療法

こういう人たちへ朗報です。「切らないで過多月経を治す療法が相次いで健康保険適応となり、目覚ましい成果を上げています」というのは浅川産婦人科・東邦大学医療センター大橋病院客員講師の浅川恭行先生。その一つが「マイクロ波子宮内膜アブレーション（MEA）」。腟から子宮へ細い管状の器具（アプリケーター）を挿入し、そこからマイクロ波を照射して、子宮の内腔を覆っている子宮内膜を焼く、という治療法です。マイクロ波は電子レンジに使われている電磁波で、60～70℃ほどの熱を発生するので、子宮内膜を壊死させることができるのです。

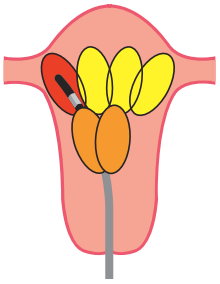
「60℃以上の熱が照射されるので、軽い全身麻酔下で行われます。焼灼時間そのものは10～20分程度で、準備時間などを合わせてもせいぜい30分。治療室から出る頃には麻酔から覚めている状態です。日帰りも可能ですが、多くの施設が大事を取って、1～2日の入院にしています。治療後痛みが出れば、鎮痛剤が処方されます」（浅川先生）

子宮摘出ともなれば数日間の入院が必要で、家事や仕事に復帰するまでの日数もかかります。マイクロ波子宮内膜アブレーションなら、金曜日に治療を受け、月曜日から仕事に戻ることが可能です。

過多月経の改善はほぼ90％

この療法は現在150施設以上で実施され、すでに2,600人以上の患者さんが治療を受けています。「私の扱った治療例では、全例で月経量が減り、半数の人が月経がなくなりました。当然、貧血も改善され、日常生活のQOLが向上しています。ほぼ90％の人が、治療効果に満足の評価を下しています」（浅川先生）。

ただしこの療法が行えるのは、妊娠や出産を希望しない人、子宮内膜に悪性の病変がない人、子宮壁の厚みが10㎜以上ある人などの条件を満たす場合です。また、治療前に、子宮頸がんと子宮体がんの検査を行う必要があります。



先端が湾曲したアプリケーターを子宮の奥まで入れて、焼き残しがないように照射する。1照射時間は1分くらいで、6回ほど照射するケースが多い。

治療前の子宮MRI
子宮内の白い部分が子宮内膜。

治療後の子宮造影MRI画像
MEAにより、術後MRIは子宮内膜が造影されていない。

子宮装着型のホルモン剤

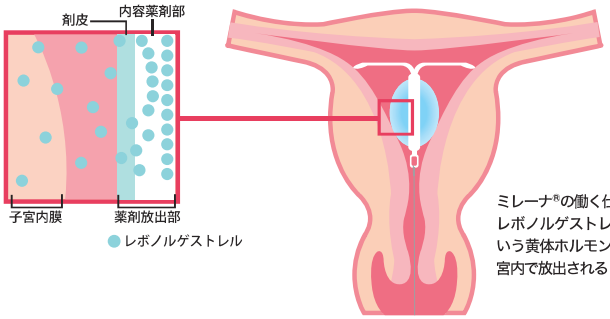
5年間月経血量を減少させる薬物療法

子宮を残した状態で過多月経の症状を軽減させる療法が、もう一つあります。1990年にフィンランドで承認され、2014年から日本でも適応承認・発売されるようになった「ミレーナ®」（バイエル薬品）です。

「子宮内膜の増殖を抑える働きがある黄体ホルモン（レボノルゲストレル）を使う薬物療法の一種ですが、ホルモン剤を服用したり、皮膚に貼ったりするのではなく、子宮の中に取り付けた装置から薬剤を放出して作用させる仕組みになっています」（前出・浅川先生）

T字型のフレームに円筒状の薬剤が取り付けてあり、ここからホルモン剤が放出されます。子宮内装具で、避妊リングと同様、装着期間中は妊娠できません。

「一度装着すれば、効果は5年間持続するので、アラフィフの過多月経に悩む女性にとって、有効な選択肢が増えたことになります。しかし、効果が出るまでの時間や、子宮の大きさで適応できないなどの問題で、MEAに比べ適応範囲が狭いです。こちらも健康保険が適応されます」（浅川先生）



ミレーナ®の働く仕組み
レボノルゲストレルという黄体ホルモンが子宮内で放出される